

センター試験 国語 (本試験) ワンポイント解説 (現代文)

<p>第1問</p>	<p>問1</p> <p>問2</p> <p>問3</p> <p>問4</p> <p>問5</p> <p>問6</p>	<p>(ア)「駆逐」で「逐次」を選ばせるのは、2004年度に「駆逐」で「逐一」を選ばせる形で既出である。他の選択肢中の「牧畜」「竹馬」は、そのまま2010年度の選択肢中で出題されている。(エ)「折衝」の意味だけを考えて④を選ばないこと。</p> <p>各選択肢の形がそろっていることに注意すること。「～に加え…」となっており、第一段落の話に、直前の「その場合」の指示内容が加わっていることに気づけばよい。「その場合」の指示内容にだけ気をとられると②を選びたくなるが、②は「協調して生活している」の部分が「異種の個体」になっている点が誤り。</p> <p>傍線部については、直後で「右に見たとおり」と述べられているので、前段落を見ればよい。前段落内の「ことはけっして簡単でないことがわかる」が傍線部中の「複雑な構造をもっている」に対応しており、直後の「集団を構成している」以下で詳しく説明しているので、その内容と各選択肢を照合すればよい。</p> <p>傍線部直前で「ここに」とあるので、「ここ」の指示内容を押さえる。直前の一文が指示内容である。個体の自己意識と集団行動が真っ向から対立することがあるということが、人間の「最大の悲劇」の内容であり、それに触れている選択肢は①しかない。</p> <p>傍線部中の「そのようなイメージ」の内容をまずつかむこと。「他者は外部世界に、自己は内部世界に」というイメージのことである。このイメージが適切でないという考え方については、傍線部の後ろに述べられている。「私」を円の中心とした場合、その中心には内部がなく、中心それ自身を内部と見るなら、中心は「内」と「外」の境界それ自身だということになる、という説明である。これ自体はやや難解な説明かもしれないが、段落の最後で『私』とは、実は『自我境界』そのもののことだといっていい」とあるので、これが決め手で③と⑤に絞れるが、⑤は「自己意識は自らが空間的中心にあることを合理的に説明できない」という本文内容にない因果関係が付与されているので不可。</p> <p>各選択肢の形が「まず…」、「つぎに…」、「最後に…」と同じ形になっているので、それぞれのパートごとにチェックしていけばミスはしないはずである。一番わかりやすいのは「最後に…」の結論部分のチェックであろう。本文の最後の2段落の内容と照合すると、①～③はおかしいとわかる。あるいは、「つぎに…」のパートは人間の自己意識について述べているが、これも①～③はおかしいとわかってもらいたい。④と⑤が残るが、⑤では「つぎに…」の部分で「問題を一般化するために」とあり、これは「他の動物と人間の対比」という本分内容に反する。また「最後に…」の部分でも「十分な形にはなりえない」という本文に反する表現がされている。</p>
------------	---	--

第2問	問1	<p>(ア)「嘲笑」の意味を考える。「ばかにして笑う」ことである。その意味を表しているのは①と②である。「浅慮」は「あさはかな考え」であり、②の「卑怯なもくろみ」は意味が異なるので不可。</p> <p>(イ)「通俗的」は「一般的」という意味。「一般」には「ごくあたりまえ」という意味があり、④がそれを表している。</p> <p>(ウ)「さしでがましく」は「でしゃばるようである」ことである。他人のことに口を出したりすることだとわかればよい。</p>
	問2	<p>心情問題だからといって心情を勝手に想像しようとするとう迷ってしまう。本文の事実にあてはまるように選ぶ。ここでは、傍線部中の「もとの悲しさ」の内容をつかむこと。20行目に「この悲しい時」とあるので、そのことだとわかればよい。「兄は実際に私の頬をなぐった。私は木立ちの中に駆け込んで、…大声に泣いた」という事実をふまえている選択肢①を選ぶべき。</p>
	問3	<p>傍線部に至るまでのやりとりが問われているが、実は傍線部そのものに注目して考えればよい。傍線部の前の内容から判断しようとするとう迷ってしまうかもしれない。傍線部で「お互いに深い吐息をついたり」「相手をとがめるような瞳をむけあったりした」とあるので、これに忠実になること。各選択肢の最後の部分との照合がポイントである。正解の⑤では、「互いに落胆し」が傍線部の「お互いに深い吐息をついたり」に、「非難するような気持ち」が同じく傍線部の「相手をとがめるように」に対応している。</p>
	問4	<p>「なぜそう見えたのか」と理由を聞かれているが、各選択肢に述べられている心情は本文には直接描写されていないので、勝手に想像しないこと。ここも問2同様に、事実の把握を正確に行うこと。53～58行目で、注意人物として警察に疑われているという事実が述べられており、これが前提である。直前では「私」は、たま虫を捕えようとするのだが、「警察の人達がカメラをもって…絵葉書を盗もうとしている姿勢として写すかもしれない」と思い、手を伸ばせずに「随分ながいあいだたま虫を眺めながら」と表現されている。この内容と照合すると、正解は①しかないことがわかる。</p>
	問5	<p>選択肢がすべて「…ので」、「…と思いながら」、「…気づきはじめている」と同じ形になっており、選択肢前半が「人を押しつけがましいのだと心のなかで思いながら」、後半が「少しばかりの人の押しつけがましいながら割り込む必要を覚えた」の説明になっている。「人を押しつけがましい／押しつけがましい」の意味を考えて選択肢をチェックすればよい。</p>
	問6	<p>①は「まず語り手が出来事の概略を述べ」、④は「より生き生きと見えるたま虫の様子」、⑤は「みずみずしさを保っている私の生を強調している」、⑥は「幸福についての私の考え方の変化」が、それぞれ本文内容に合わない。</p>

センター試験 国語 (本試験) ワンポイント解説 (古典)

<p>第3問</p>	<p>問1</p>	<p>(ア)の直後の格助詞「と」から「ばや」は希望の終助詞で「～たい」と訳すことがわかる。これで①・⑤に絞る。「見あきらめ」を①では「自分の目で見つけ」、⑤では「はっきりと見きわめ」となっているが、「あきらめ」は動詞「明らむ」の未然形であり、また3行目「摺巻に伝はれる書のほか、師とする人もなき山ふところに、あやなく思ひをくらさんよりは」から「書の手本」を探しに上京したことがわかることから⑤が正答。</p> <p>(イ)「はした」は「中途半端でばつが悪い」で②・④・⑤に絞り、「思ひ屈し」が「気持ち屈する→気落ちする」の意味、また直前の「鳴る神につく獣の、雲におくれたる」から④が正答。</p> <p>(ウ)「本意」は「本来の意志・希望」、「事なり(＝「事成る」の連用形)」は「成就する・成功する」の意味なので②が正答。</p>
	<p>問2</p>	<p>aは「尊敬」か「受身」か問われているが、主語の「宮人」には15行目で「給ひ」と尊敬語が用いられているので「尊敬」の意味。</p> <p>bは「琴」＝「体言」に接続している「なり」なので断定の助動詞。</p> <p>cは下二段活用「かく」の連用形に接続し、助動詞「けり」が下接しているので「完了」の助動詞。</p> <p>dは四段活用動詞「給ふ」に接続しているので、完了の助動詞。</p> <p>※aがわかりにくい、b～dがわかると選択肢を選ぶことができる。</p>
	<p>問3</p>	<p>傍線部は2行目「されど」から続いているので、この一文の中で考える。4行目「ゆくりなく思ひおこして」、直後の「おほけなく思ひ立ちぬること」から「突然思い切った行動を取ってしまう」とある②が正答。</p>
	<p>問4</p>	<p>「不便なり」は「不都合だ・かわいそうだ」の意味があるが、ここでは「宮人の気持ち」が問われているので「かわいそうだ」の意味となり①・④に絞る。さらに傍線部以下の発言「志の深さには、高きいやしきけぢめもなきものぞ。我よくこととり申さん」と内容が一致する①が正答。</p>
	<p>問5</p>	<p>選択肢を吟味すると、和歌の詠み手が問われている。</p> <p>Aは直前に「これに歌そへよ」と宮人が鷹飼いに命令しているので、鷹飼いが詠んだ歌、B・Cは直前に「その心にかはりて」とあるので、作者がなりかわって詠んだ歌である。これにより、①・⑤は不適當。</p> <p>③のBの歌の説明では、19行目「家をば売り、女子は人のもとに預けて行く」から「売りに出した家が任務を終えて戻ったときにはなくなっているかもしれないと想定する」の「想定する」の部分が本文の内容に合わない。また、この歌には「世の無常のさま」は詠まれていない。</p> <p>②・④の選択肢の内容は紛らわしいので、和歌だけでなく本文全体の記述内容とセットで吟味する。</p>
	<p>問6</p>	<p>①「大げさで滑稽な比喩表現」「笑いと涙が入り混じる人生の機微が伝わる」とあるが、本文に「滑稽」「笑い」の内容は記されていない。</p> <p>②「主人公の身分に変化が訪れたこと」「立身出世をとげていく」とあるが、主人公の「鷹飼い」が指名された「防人」は辺境へ行かされる兵士のことで、「立身出世」していない。</p> <p>④「貴族社会に積極的に溶け込んでいく様子」とあるが、鷹飼いは「積極的に貴族社会に溶け込んでいく」記述がない。</p> <p>⑤「古代の文化にあこがれる陸奥の鷹飼い」「時代の流れに逆行しようとする姿」は本文に描かれていない。</p> <p>上記から、記載内容に本文と差異がない③が正答となる。</p>

第4問	問1	<p>(1)「未」は再読文字で「まだ～ない」の意味、「幾」は「いくばく」と読んで「どれくらい」の意味である。「時間」に対して用いると、2語あわせて「まもなく」の意味となる。</p> <p>(2)「交」は漢文で学習する語ではない。現代文では「こもごも」と読み、「交互」などの熟語からわかるように「かわるがわる」の意味となる。このように、センター試験では、「漢文」の重要語ではなくても「現代文」で意味や読みが出題されることが多くあるので注意が必要である。</p>
	問2	<p>返り点・書き下し文を問う問題では、傍線部に含まれる「句形」「語句」に注目する。ここでは「為＋(人物)＋所＋(動詞)」の受身形が含まれており、「(人物)ノ(動詞)スル所ト為ル」と読む。これで①が正答となる。</p>
	問3	<p>解釈を問う問題でも、傍線部に含まれる「句形」「語句」に注目する。「然レドモ」は逆接の接続語なので、②・③・⑤に絞る。傍線部後半の「可」は「～できる」、「贖フ」は「罪を償う」の意味なので②が正答となる。</p>
	問4	<p>(i) 最初の[X]の直前に「吏考験(＝役人が取り調べると)」とあるから、[X]には取り調べの結果が入り、①得免→無罪、④得死→死罪、に絞ることができる。「吏考験」の内容は「蛇の功」である「有黄、可治病」を指しているため、①が正答となる。</p>
	問5	<p>(ii) は(i)の解答から、蛇も牛も「無罪」となった④・⑤に絞る。⑤の「人を殺してきたというのは誤解で」の「誤解」が誤りなので、④が正答となる。</p>
	問6	<p>傍線部Cの直前の「其人…妄言」、直後の冥官のセリフ「蛇黄・牛黄…何黄之有」から、⑤「その場しのぎのいい加減なことを言うその人の態度に腹を立てた」が正答となる。</p>
	問7	<p>書き下し文を問う問題では、傍線部に含まれる「句形」「語句」に注目する。傍線部後半の「何A之有」は「何ノAカ之レ有ラン」と読む反語形であり、「どんな～があるのだろうか、いや～ない」の意味になる。これで③が正答となる。</p> <p>また、選択肢全ての「為」の読み方が異なるが、漢文では「読み」＝「意味」になるので、本文の意味を考えてみる。「汝」は「人」を指すので、③の「人為り(＝人である)」の意味(読み)になる。</p> <p>選択肢では、「黄」「当」の使い方が問われている。「当」は本文中に「当死」が2回、「当還命」が1回と「多用されて」いないこと、また「黄」が判決の決め手になる語であることから、「当」を話題にしている①・③・⑤が不適當。</p> <p>②は「自分の恨みの気持ちが完全に消えたこと」とあるが、「恨みの気持ち」について、本文中に記されていないので、不適當。</p> <p>従って、④が正答となる。</p> <p>※本年度は、問7以外はまぎらわしい選択肢の問題がなく、基本的な句形・語句と傍線部の前後の読解で、確実に正答を導くことができた。</p>